

武蔵野ふるさと歴史館における中島飛行機関連事業の経緯

1 歴史館の概要

(1)歴史館は、博物館機能・公文書館機能・文化財保護普及機能を持つ複合施設

※博物館の3本柱 教育普及・収集保存・調査研究

(2)歴史館は、開館(平成26年(2014))以来中島飛行機関係事業を実施

(3)歴史館は、「管理運営基本方針」に基づき様々な教育普及事業を展開

→「基本理念」:資料に立脚し、専門職員が調査・研究等を進める

:地域・学校等にかかれた施設を目指す

2 教育普及分野の経緯と特徴

◎ポイント

(1)民俗資料中心から米国国立公文書館資料の比重を高め、歴史公文書の活用へ展開

(2)博学連携・地域連携をすすめ、第六期長期計画に基づく平和事業との連携を強化

【特徴あるトピック】

(1)展示 ア Target No.357 (H29 10~12月):米国資料中心、図録作成

イ 中島と埼玉(R3 3~5月):初の博学連携展示(中学・高等学校)

(2)連携 長崎市への青少年平和交流派遣団事前学習への協力

3 収集保存分野の経緯と特徴

◎ポイント

・既存資料の調査研究→教育普及事業での活用→新たな収集→調査研究 という「循環」

※収集業務単体、展示業務単体で終わらせることはしない!

【沿革】

・H27・28年度 米国国立公文書館原蔵資料収集事業実施(以後、継続して実施)

・「管理運営基本方針」(2期)「重点的に収集」と明記※「アジア・太平洋戦争期の資料」と呼称

・「管理運営基本方針」(3期)「地域資産の活用と協働」に位置づけなおす

→関連工場所在自治体等との連携を明記

4 調査研究分野の経緯と特徴

◎ポイント

- (1)「管理運営基本方針」(3期)の重点研究分野の一つとして特記
 - ①市域の歴史・文化 ②博物館の管理運営 ③武蔵製作所
- (2)博物館・公文書館の複合施設は全国に例が少なく、取り組み自体が先進事例となる
→武蔵野市らしい事業展開を下支え

5 館課題とのかかわり

◎ポイント

- (1)長期計画および管理運営基本方針に基づいた事業展開
- (2)館が抱える各種課題の克服をはかりつつ、市民からの要望との整合に配慮

【具体例】

(1)民俗資料の利活用

- ・戦争資料展示で民俗資料の活用実績を積み重ねている

(2)博学連携、地域連携の促進

- ・「調べ学習」に配慮した展示、地域に根差したテーマに基づいた展示
- ・教育委員会所管施設として ①学校教育支援機能 ②生涯学習支援機能 が重要

(3)公文書館機能の強化

- ・第六期長期計画で「公文書館機能の強化」が明記
→歴史公文書の活用(管理条例第 21 条「利用の促進」)を実現する場としても活用
→管理運営基本方針(3期)がうたう「様々な機関との協働」にも合致
→平成 30 年告示の高等学校学習指導要領にて「公文書館」「公文書」の活用が明記

(4)歴史館認知の推進

- ・歴史館の中島飛行機関連事業は全国区レベル！

6 「平和事業」との住み分けポイント

◎ポイント

第六期長期計画・管理運営基本方針の記述

(1) 平和事業の取り組み

- 歴史館・図書館等との「連携」を明記

(2) 資料の「利活用」

- 歴史館・図書館等は資料の「利活用」を行う場

(3) 専門的知見、調査研究に基づいた事業展開

- 過去の研究における未解明、不十分な部分を抽出し、調査研究で克服